

KALS NEWSLETTER 58

2018年12月
九州アメリカ文学会
事務局 佐賀大学全学教育機構内
佐賀市本庄町1
〒840-8502

フリーダム・トレイルに住む

宮本 敬子（西南学院大学）

2017年9月より約半年間、勤務校から研究休暇が与えられたので、フルブライト研究員としてブラウン大学の現代文化・メディア学科に籍をおいた。当初、ブラウン大学のあるロード・アイランド州プロヴィデンスに住むつもりだったが、家庭の事情でボストンに住むことになった。どこを探しても法外な家賃ばかりで気が滅入ったが、半年の滞在で家具付きとなると選択の余地はない。アパートはボストン・コモンのすぐ側、地下鉄ダウントOWN・クロッシング駅まで徒歩5分というロケーションで、フリーダム・トレイルとして知られるアメリカ独立戦争の史跡のただなかにあった。そこから子供は歩いて通学し、私は電車で1時間かけてプロヴィデンスまで通うという生活が始まった。

ボストンは毎年5月に開催されるALA (American Literature Association) の年次大会で何度も訪れている町だが、やはり住んでみると印象も変わる。生活し始めてすぐに、ダウントOWNが学生とホームレスの街でもあることを思い知らされた。アパートは、サフォーク大学、エマソン・カレッジに隣接し、ひと駅先にはタフツ医科大学がある。ダウントOWNは大学のキャンパス同然だった。学生がシェアしているという階下から、週末ごとに爆音パーティーの音が聞こえて来る。お隣はバークリー音楽院の学生とかで、ギターの練習に余念がない。真夜中の爆音と通気口から漂ってくる甘い煙のために、ときどきセキュリティーに電話をしなければならなかった。毎朝ドアマンと挨拶を交わしてアパートを出ると、次に会うのはホームレスの人々だ。近くに公園とシェルターがあり観光客も多いせいか、どんなに寒い時でも彼らに会わない日はなかった。多和田葉子の『百年の散歩』ではないが、女性のホームレスにだけ小銭をあげるとか、雨の日だけあげるとかルールを決めなければきりが無い。あるいは教会で教えられたように“Sorry, I've no cash.”と言いながら足早に通り過ぎていくしかない。

子供を学校まで送って行く道はフリーダム・トレイルと重なる。ボストン・コモンを通り抜け、金ドームのマサチューセッツ州会議事堂の前を横切る。学校の前で子供と別れると、上院議員時代のJFKが通っていたキャピタル・コーヒー・ハウスでアメリカン・コーヒー

を飲む。それからビーコン・ストリートを下って、キングス・チャペルを横目に右折して、ポール・リヴィエなど独立戦争の英雄たちの墓が意外と質素なグラナリー墓地へと向かう。隣接するパーク・ストリート教会は、W.L.ギャリソンがアメリカで初めて奴隷制度反対のスピーチしたので有名だ。教会からボストン・コモンに目を向けると、よく何かの集会が行われていた。ボストン・コモン周辺では、**Black Lives Matter** やトランプ政権発足に端を発した **Women's March**、また 2017 年秋から 2018 年春にかけて頻発した銃乱射事件に対して銃規制を政治家に迫った **March for Our Lives** など全米規模のものをはじめとして、大小さまざまなデモで交通規制が敷かれることが多かった。喧噪を避けてワシントン・ストリートに向かう細い路地に入ると、全米屈指の歴史を誇る 1825 年創業の古書店 **Brattle Book Shop** があり、屋外のオープンスペースにも夥しい数の本が並べられている。レンガの壁には何人もの作家の巨大な肖像画が描かれており、そのなかにトニ・モリスンの顔もあった。ワシントン・ストリートに出ると、**Forever 21** の前に *The Catcher in the Rye* を読みながら座っているおじいさんがいて、店から出てくる若者に「この本は大人になってからのほうがよく分かる。phony の側にいるから」などと話しかけていた。

ブラウン大学へは、地下鉄でチャイナタウン駅からバック・ベイ駅に行き、そこから MBTA の通勤電車かアムトラックで通った。プロヴィデンスの駅から大学まで徒歩 15 分くらい、政教分離を唱えたロジャー・ウィリアムズの国立記念館の横を通り、アメリカで 1、2 番目に古いというバプテスト教会の角から丘を登っていくとキャンパスだ。秋学期は恩師 ジョアン・コブチェック教授の映画のセミナーとカラ・キーリング教授の黒人表象のセミナーを聴講させてもらい、Ph.D コースワーク時代さながらの忙しさとなった。ブラウン大学は創設者が奴隷制度の受益者であったことを認め、多様性と平等のためのさまざまな取り組みを行っている。多くのイベントに参加する機会があったが、なかでもサミュエル・ディレイニーとコーネル・ウエストの講演が印象的だった。ディレイニーは自らの半生と執筆活動を赤裸々に語る講演と映画上映をおこない、著作についての具体的な質問にも丁寧に答えていた。コーネル・ウエストの講演会では、経済的成功のための **schooling** ではなく、もっと広く深い意味での **education** が必要なこと、他者の苦しみに心を傾け、高い倫理的基準を自ら保つことの大切さが訴えられた。

アメリカの多くの大学と同様、ブラウンの図書館もほとんどの文献を自宅からオンラインで読んだりダウンロードしたりできるので、春学期はボストンで研究することが多かった。仕事に疲れるとノース・エンドのほうまでよく散歩したが、トランプ政権下のフリーダム・トレイルはデモや集会で騒がしく、この国の自由と平等への終わりなき戦いを痛感した半年だった。

地区便り

<北九州地区>

北九州市立大学 齊藤 園子

北九州地区からは（１）国際講演会の開催 （２）北九州アメリカ文学研究会の活動についてご報告いたします。

（１）国際講演会の開催

日時： 2018年6月16日（土）11：00～12：30

会場： 北九州市立大学 小倉サテライトキャンパス

演題： **Official Worlds in American Literature**

講師： マーク・セルツァー（カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授）

司会： 齊藤 園子（北九州市立大学准教授）

本講演会は九州アメリカ文学会より助成金をいただき、九州ヘンリー・ジェイムズ研究会と北九州アメリカ文学研究会の共催で実施されました。講演会では早瀬博範会長よりご挨拶をいただきました。会長にはご同席を賜り、誠にありがとうございました。

ご講演は、ご著書 *The Official World* (Duke UP, 2016) の観点から、ヘンリー・ジェイムズの “The Jolly Corner” (1908) をはじめ、多様な作品を扱って行われました。人類の未来を予見させる壮大な観点から文学・映像作品の分析が展開され、刺激的で貴重な時間となりました。ご講演後には参加者との間で活発な意見交換が行われました。お出でいただいた皆様には感謝申し上げます。

セルツァー先生には、同週6月14日（木）にも北九州市立大学北方キャンパスにおいて特別講義を行っていただきました。学部生に加えて一般の方々のご参加もいただきました。今回のセルツァー先生の招致には竹内勝徳先生（鹿児島大学教授）より多大なお力添えを賜りました。この日は竹内先生もご来場くださり、ご講義後の少人数でのディスカッションにご参加くださいました。ディスカッションは、ホーソン、メルヴィル、ジェイムズを含め、幅広い作家・作品に話題が及び、非常に楽しく充実した時間になりました。竹内先生にはお力添えに改めて感謝申し上げます。

（２）北九州アメリカ文学研究会の活動

北九州アメリカ文学研究会では次のような活動を行いました。

○ 第12回研究発表会

日時： 2018年8月25日（土）14：00～17：00

会場： 北九州市立大学 北方キャンパス

[研究発表1]

題目： **Jane Austen** の小説『高慢と偏見』に見る女性の自立、お金そして愛

発表者： 永田 妙子（北九州市立大学外国語学部卒）

司会： 井上 妙子（アメリカ文学研究家）

[研究発表2]

題目： 二つのスピーチから見える様々な人間像
——シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』より
発表者： 藤勝 美代子（北九州市立大学大学院社会システム科前期修了）
司会： 山村 栄子（アメリカ文学研究者）

○ 第7回講演会

日時： 2018年11月10日（土）14:00～16:30

会場： 北九州市立大学 北方キャンパス

演題： トランスアトランティック・ソロー：ミルトン、コールリッジ、ソロー
——レテの川より難破の岸辺へ

講師： 伊藤 詔子（広島大学名誉教授）

司会： 村田 希巳子（北九州市立大学非常勤講師）

伊藤詔子先生をお招きした本講演会は、乗口眞一郎先生（北九州市立大学名誉教授）が中心となって実現されました。ご講演では、ヘンリー・デイヴィッド・ソローとイギリス・ロマン派の影響関係が、歴大な文献調査に基づく緻密な分析によって鮮やかに解明されました。ご講演後には、参加者からの質問に詳細な説明でお応えくださいました。また本題と合わせ、ご著書『ディズマル・スワンプのアメリカン・ルネサンス』（音羽書房鶴見書店、2017年）や、関連分野における先生の最近のご活動や発刊予定のご著書・訳書についてもお話しください、参加者は時間が経つのを忘れて拝聴しました。この地区便りに寄せて、乗口先生より、「2時間半に及ぶご講演を途中の休憩もなく、一気に成し遂げられた伊藤教授の超人的な学識・体力に感動しました」とのお言葉をいただきました。

<熊本地区>

熊本大学 池田 志郎

熊本地区では市民も巻き込んだ研究会が伝統的に行われてきています。専門的研究成果を地域に還元して地域貢献の一環とするとともに、専門家の垣根を取り払って、英語文学好きの人たちの交流を深めようという意図からです。高校の英語の先生だった人たちも参加していますので、高校での授業の様子や人生経験など、いろいろ面白い話が聞けて、楽しい会となっています。来るもの拒まずです。

さて、今回は研究会2回分の報告です。

○第143回（2018年7月21日）熊本大学にて

題目： John Steinbeck の *The Pearl* (1947) について——作家が描く家族像と人間像
発表者： 馬渡美幸（熊本大学非常勤）

司会者：山本幹樹（熊本大学非常勤）

*本発表では、作品の執筆過程、善と悪の物語、作品中に流れる音楽、という三つのモチーフが中心に据えられました。有名な作品でしたので、多くの質問や意見が出て盛会でした。そのいくつかを挙げると、この話の後はどうなるのか（すべてを失くして得るものはなかったのか）、真珠は何の象徴なのか、Juana が家族を支えているのではないのか、誰が子どもを殺したのか、Juana と Kino の関係は二人の位置関係に見て取れるなど、発表者も含めた議論の中で、この作品がさらに掘り下げられました。

○第 144 回（2018 年 9 月 29 日）熊本大学にて

題目：Dreiser の *Twelve Men* について——特に、“A Doer of the Word” を中心に

発表者：田口誠治（尚絅大学）

司会者：角田俊治（熊本大学非常勤）

*今回扱われた作品は、なかなか興味深いものでした。だいぶ前に「清貧の思想」という言葉が流行りましたが、この作品では、それを実践している人物が登場し、何も見返りを求めないのです。どっぷりと俗事に浸かっている身としては、少々出来すぎの感じもありますが、参加者一同、幸せとは何なのかを考えさせられました。それと同時に、この単純さは皮肉でもありうるのではないのか、アメリカ的単純さ、アメリカの喜劇を表現しているのではないのか、という意見も出て、Doer とは何か、the Word とは何かなど、さらに謎は深まりました。

<鹿児島地区>

鹿児島大学 千代田 夏夫

鹿児島地区会員の活動をご報告いたします。千葉義也先生（鹿児島大学名誉教授）は今年も『ヘミングウェイ研究』19号に「書誌：日本におけるヘミングウェイ研究—2017—」を寄稿なさいました。貴重なデータベースがますます充実してまいります。日本ジャック・ロンドン協会第26回年次大会（6月16日於鹿児島大学）では、森孝晴先生（鹿児島国際大学）のご講演と同大学大学院博士後期課程お二人の研究発表が行われました。ジャック・ロンドンに影響を与えた薩摩武士についての森先生の論文シリーズは第9部「長沢の死後の動きから現代の奇跡まで」（『ジャック・ロンドン研究』第5号、6月発行）で完結、8月には先立つ1～8部と共に『長沢鼎 武士道精神と研究者精神で生き抜いたワインメーカー』（高城書房）となってご上梓の運びとなりました、心からお慶び申し上げます。本書ではロンドンと長沢の関係についても複数箇所触れられており、森先生は早速御著書とともにカリフォルニア州をご訪問、長沢の子孫の方々ともお会いになったとのこと。千代田は日本アメリカ文学会東京支部6月例会シンポジウム「ハーレム・ルネサンス再訪」（6月30日於慶應義塾大学）にて「フィッツジェラルドのフォーク・モダニズムの可能性—ハーレム・ルネサンスとアイルランド文芸復興の関わりから」と題してパネルを務めさせていただきました。『ヘミングウェイ研究』19号掲載の「ロマンスからリアリズムへ—『武器よさらば』における漁夫王伝説をめぐって」にもお目とおしいただきましたら幸いです。

事務局からのお知らせ

(1) 九州アメリカ文学賞応募

『九州アメリカ文学』59号にありますように、九州アメリカ文学賞（新人賞）の応募締め切りは2019年2月20日(水)です。応募をお待ちしています。

従来は郵便による応募に限定していましたが、先年より電子メールによる応募も可能となりました。

(i) 郵送の場合

〒840 - 8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学全学教育機構内
九州アメリカ文学会事務局 鈴木繁 宛

(ii) 電子メールの場合

高橋美知子（福岡大学）mtakaha@fukuoka-u.ac.jp

いずれの場合も、「九州アメリカ文学賞論文応募」と明記して下さい。

(2) 『九州アメリカ文学』投稿

『九州アメリカ文学』59号にありますように、『九州アメリカ文学』60号への投稿は2019年4月30日（火）締め切りです。こちらも応募をお待ちしています。

宛先は

〒840 - 8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学全学教育機構内
九州アメリカ文学会事務局 鈴木繁 宛

(3) 「九州アメリカ文学会出版助成金」申請

「九州アメリカ文学会出版助成金」への申請締め切りは、規則の変更により、昨年までの2月末日から、1月末日になりました。従って、2019年度の締め切りは、2019年1月31日（木）となります。また助成限度額も、従来の300,000円から、100,000円に変更されています。申請の要領は、『九州アメリカ文学』59号をご参照下さい。

(4) 九州アメリカ文学会第65回大会発表者募集

九州アメリカ文学会第65回大会は、2019年5月11日(土)・12日(日)の両日、沖縄の琉球大学において開催されます。つきましては、下記の要領で研究発表を募集いたしますので、ふるってご応募ください。多くの研究者の積極的なご参加をお願いいたします。

1. 発表者は大学院博士前期課程（修士課程）在学者を含むアメリカ文学研究者。
2. 発表時間は40分（発表30分、質疑応答10分）。
3. 発表は英語でも日本語でも可。
4. 発表希望者はタイトルとレジュメを以下の要領で提出すること。
 - * レジュメは発表の際に使用する言語で作成すること。
 - * 英文の場合は300語程度。

- * 日本文の場合800字程度とし、数行の英語の要旨または数語のキーワードを文末に付加すること。
- * 発表題目の固有名詞（作家名・作品名）は英語とする。
- * コンピューターで作成する場合は、Wordを使用し、メールで添付書類として送付するか、ワープロソフト名が明記されたフロッピーディスクに原稿を添えて郵送すること。
- * 提出先 メール tsutomu@flc.kyushu-u.ac.jp
郵送先 〒811-1123 福岡市早良区内野7-11-6 高橋 勤
- * 締め切りは2019年2月20日（水）（必着）。
- * 大会ならびに発表に関するお問い合わせは、高橋 勤（tel.092-803-2217/ e-mail: tsutomu@flc.kyushu-u.ac.jp）までお願いします。実りある大会にするために、多くの応募を期待いたします。

(5) 『アメリカ文学研究』, *The Journal of the American Literature Society of Japan* 論文投稿

日本アメリカ文学会発行の『アメリカ文学研究』（和文、英文）への論文投稿希望の方は、直接、本部事務局へ論文を送付してください。原稿送付先住所、締め切り等、詳細は必ず本部のホームページにてご確認ください。

(6) 日本アメリカ文学会第 58 回全国大会発表者募集

2019 年度日本アメリカ文学会第 58 回全国大会は、仙台の東北学院大学にて開催が予定されています。日程はまだ確定していませんが、今のところ、2019 年 10 月 5 日（土）・6 日（日）を予定しています。発表を希望される方は、名前、住所、略歴、現在の所属、発表のレジュメを九州アメリカ文学会事務局のメールアドレス（suzukis@cc.saga-u.ac.jp）に 3 月 31 日（日）までに電子メールで応募してください。

以下の点に特に気をつけてください。

- (i) 略歴では、連絡用のメールアドレス、6～7 月にかけてゲラを送送する宛先の住所（郵便番号）、現在の所属（常勤か非常勤か）を必ず明記する。
- (ii) 発表タイトルに副題をつける場合は、和文は「—」、英文は「:」に統一する。
- (iii) 発表レジュメの字数は日本語で 1200 字程度、英文で 400 語程度。

なお、その詳細につきましては、例年学会本部から会員に送られる年賀状に記載されていましたが、来年（2019 年）から年賀状は廃止されます。研究発表の投稿規定は、日本アメリカ文学会本部ホームページに掲載を予定しておりますので、発表を希望なさる方はそちらをご覧ください。

(7) 会計からのお知らせ

大学等の所属に変更がございましたら、年会費振込用紙にその旨をお書きいただくか、あるいは、KALS 会計（名本達也：namotot@cc.saga-u.ac.jp）までメールにてお知らせください。どうぞよろしくお願いたします。

●KALS 会員用メーリングリストへのご登録のお願い●

前年来、下條恵子先生のご尽力によりまして、メーリングリスト(以下 ML)への会員登録を進めてまいりましたが、今年 5 月からシステムの管理を事務局が引き継ぐことになりました。この ML を、ニューズレターの配信、大会案内、例会案内、災害や列車運休などによる大会・例会の急な変更、また各種学会・文学イベントのお知らせなどに活用したいと考えております。

この 5 月に開催された九州アメリカ文学会総会において、2018 年度より上記の案内等はすべて、ML を使って行うことが承認されました。従って、これまで郵送されていたニューズレター、大会や例会案内等が、ML にご登録いただきませんと、来年度以降、皆様のお手元まで届かなくなります。なお 9 月末時点で、登録者数は 40 名程度に留まっております。この機会に是非ご登録いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【登録に関する詳細】

ML への参加方法：管理者の承認が必要。

ML 投稿設定：登録メンバーのみ投稿可、それ以外の投稿は管理者の承認が必要。

【登録の手順】簡単です！ぜひご登録をお願いいたします！

1. 以下のメールアドレスに空メールをお送り下さい。送信時のメールアドレスが ML に登録されます。

join-kalsjapan1955.dIPx@ml.freeml.com

2. 【Freeml】より「ML 参加確認のお知らせ」というメールが届きますので、メール内のリンク先（「参加完了はこちらから」）にアクセスし、メッセージ欄にお名前とご所属を記入の上、「参加承認申請する」のボタンをクリックして下さい。

3. 一週間以内に ML 管理者(KALS 事務局)による承認が行われ、その旨メールが届きます。このメールが届くと登録完了です。一週間以内に承認のメールが届かない場合はお手数ですが、事務局の名本先生までご連絡下さい。

(namotot@cc.saga-u.ac.jp)

4. 登録された方は ML のアドレス宛 (kalsjapan1955@freeml.com) にメールを投稿することができます。投稿されたメールは ML に登録されている会員の皆さんに送信されます。

(以上、登録方法を解説した文書は、下條先生がご作成くださったものです)

以上